

医学教育分野別評価  
熊本大学医学部医学科  
年次報告書  
2021年度



熊本大学  
Kumamoto University

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度  
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.3  
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

はじめに

本学医学部医学科は、2019年6月に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2020年2月1日より7年間の認定期間が開始した。

認証評価の実地調査の際に指摘いただいた多くの改善すべき事項について対応策を検討するため、医学科カリキュラム委員会の附属組織として各項目ごとの分科会を組織した。医学科各講座の教授はすべていずれかの分科会に所属してもらい、医学教育に関するそれぞれの課題について対応策の検討をする仕組みを作成した。さらに2019年度の医学教育FDWSでは、学修成果基盤型教育の根幹をなす本学の使命と学修成果を再度見直すことをテーマとし、教職員、学生の参加を得て議論を行った。今後7年間、継続的に医学教育の改善を図っていく予定である。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32を踏まえ、年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2020年4月1日～2021年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32の転記は省略した。

**領域 1****良い点・特色ある点として評価された項目**

1.使命と学修成果	1.1 使命
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
使命は、学生、教員のみならず、学外臨床実習施設、研究センターにも説明や資料配付によって明示している。	
現在の状況	
本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。今後、関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップする予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1：2019 年度医学教育 FDWS 記録	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

1. 使命と学修成果	1.2 大学の自律性および教育・研究の自由
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
「教育医長制度」を設けてカリキュラムに対する教員の意見を述べる機会が保障されている。	
現在の状況	
教育医長会議は年 10 回ほど定期的に行われ、各講座への伝達と教員からの意見聴取、あるいは教育カリキュラムについての議論の場となっている。2020 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ 10 回開催された。	
現在の状況を示す根拠資料	
資料 2：2020 年度教育医長会議議事記録	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

1. 使命と学修成果	1.2 大学の自律性および教育・研究の自由
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
学生がカリキュラムに関する意見を述べる機会として「医学科学生代表と医学部長、医学科長との懇談会」、「熊本大学長との懇談会」、「医学科カリキュラム委員会」などが設定されている。	

現在の状況
学生がカリキュラムに意見を述べる機会として、カリキュラム委員会に学生が正式構成員として参加し、意見を述べている。また 2020 年 4 月より医学科教育教務委員会に学生委員が正式参加し、意見を述べている。2020 年 12 月に「学部長との懇談会」、「学長と学生代表との懇談会」が開催された。
現在の状況を示す根拠資料
資料 3：カリキュラム委員会細則 資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事記録 資料 5：医学教育教務委員会細則 資料 6：「学部長懇談会」 資料 7：「学長と学生代表との懇談会」

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

1.使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
学生が卒業時に獲得しておくべき能力を「熊本大学医学部医学科教育成果」として明文化し、7 つのコア教育成果と合計 50 の小項目が定められている。	
現在の状況	
本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。今後、関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップする予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1：2019 年度医学教育 FDWS 記録	

#### 良い点・特色ある点として評価された項目

1.使命と学修成果	1.3 学修成果
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
「熊本大学医学部医学科教育成果」は、ホームページ、学生便覧、ガイダンス等を通じて学生をはじめ、教職員、臨床実習施設にも周知している。	
現在の状況	
引き続き学修成果はホームページ、学生便覧、ガイダンス等にて周知していく。2020 年度には新型コロナウイルス感染拡大の影響により、熊本大学内の e ラーニングシステムである moodle に「医学部医学科連	

<p>絡用」というコースを設け、医学科からの学生への連絡の場とした。2020年度4月のガイダンスは、新入生を除き、この「医学部医学科連絡用」にオンデマンドのガイダンス説明動画と関係資料を視聴することによってなされたが、そこでも使命と学修成果の周知がなされた。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料</p>
<p>資料 8：熊本大学医学部医学科ホームページ</p> <p>資料 9：2020 年度学生便覧（Ⅱ熊本大学医学部医学科教育成果 P4～P5）冊子</p> <p>資料 10：moodle「2020 医学部医学科連絡用」</p>

**良い点・特色ある点として評価された項目**

1.使命と学修成果	1.3 学修成果
<p>質的向上のための水準：適合</p>	
<p>特記すべき良い点（特色）</p>	
<p>医学科の教育成果と厚生労働省による「臨床研修の到達目標」および熊本大学医学部附属病院群卒後臨床研修プログラムの目標は関連づけられている。</p>	
<p>現在の状況</p>	
<p>本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。その中で学修成果と「臨床研修の到達目標」との関連が考慮された。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 1：2019 年度医学教育 FDWS 記録</p>	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

1.使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
<p>基本的水準：適合</p>	
<p>特記すべき良い点（特色）</p>	
<p>学修成果の策定には、医学教育 FDWS での議論を含め、学生、教職員が参加して策定している。</p>	
<p>現在の状況</p>	
<p>本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。今後、関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップする予定である。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p></p>	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

1.使命と学修成果	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
2016年に使命を策定する際にも教職員、学生からパブリックコメントを求めている。	
現在の状況	
「使命・学修成果分科会」および2019年11月開催のFDワークショップにて作成した使命と学修成果の改定案についても、今後、教職員、学生等へのパブリックコメントを収集する計画である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1：2019年度医学教育FDWS記録	

#### 今後改善が見込まれる項目

1. 使命と学修成果	1.4 使命と成果策定の参画
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
今後、使命と教育成果を改定する際には、他の医療職種、患者、公共ならびに地域医療の代表者など、より広い範囲の教育関係者の意見を聴取することが望まれる。	
改善状況	
本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織した。また2019年11月に教職員、学生参加の上でのFDワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。	
今後の計画	
今後、関係各所へのパブリックコメントを収集し改定案をブラッシュアップする予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1：2019年度医学教育FDWS記録	

## 領域 2

### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準：適合	
改善のための助言	
アクティブラーニングをさらに充実させて、学生の自己学習を促進すべきである。	
改善状況	
<p>カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織し、その中で、教育方略も含むカリキュラム全般について検討する「カリキュラム分科会」を設置した。カリキュラム分科会において、アクティブラーニングの推進についても検討している。熊本大学での IoT 環境での講義・実習は、熊本大学内に限定されているインターネット環境「熊本大学ポータル」に搭載されている e-ラーニングシステムである moodle を主なプラットフォームとして行われる。moodle は本学の教職員や学生などあらかじめ登録された者のみ利用可能で、動画や PDF などの講義資料をはじめ様々な電子ファイルを掲載でき、登録されたものが自由に閲覧できる。さらに小テストやアンケート、課題の提示と提出などが moodle 上で可能である。</p> <p>令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大により、キャンパス・大学病院への立入制限、対面講義・実習の制限がなされ、インターネットを利用した遠隔講義・実習の必要性が高まった。熊本大学は moodle の活用を推奨し、さらにインターネットでの会議システムである Zoom と契約し、全教員にアカウントを配付した。2020 年 4 月から 5 月にかけてのキャンパス立入制限中は、全学年の講義について、Zoom や moodle を活用することにより、講義室以外の環境（自宅など）から受講できる遠隔講義とした。講義形態としては、(1) Zoom を用いた同時刻視聴の遠隔講義、(2) moodle に掲載したオンデマンドの講義動画を視聴することによる講義、(3) moodle 上に掲載した資料を基に行う自己学習、の 3 形態とし、さらに講義資料の電子版掲載やレポート提示と提出に moodle が活用された。実習については、3 年生の基礎演習が遠隔での実習となった。また臨床実習については、臨床研究棟への立入が許可されている期間は臨床研究棟（医局）から遠隔での手術見学や医局でのシミュレーターを用いた実習などがなされたが、本荘キャンパス立入制限期間中は moodle や Zoom を活用したカンファレンス参加、グループ学習や討議、講義動画の視聴、症例シナリオの提示とそれについてのレポート作成、割り当てた症例についての診療計画の作成、遠隔での訪問介護模擬体験など、様々な代替実習がなされた。さらに、1 年生から 6 年生すべての学生を対象に moodle を用いたオンライン特別教育として「新型コロナウイルスに関する学修」が行われた。その中で新型コロナウイルスに関する講義動画の視聴、学生生活における感染対策についてのレポート作成・提出、新型コロナウイルス関連論文、新型コロナウイルス症例シナリオなどを題材にしたレポートを作成・提出させた。さらに 2020 年 8 月 30 日には、医学教育 FD ワークショップを Zoom にて開催し、IoT を用いた遠隔講義・実習の長所短所を議論し、医学科教員の IoT を用いたアクティブラーニングのノウハウの獲得を図った。</p>	

今後の計画
2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、教職員学生ともに経験のない状況で医学教育が継続されたが、Zoom や moodle といった IoT を応用した教育手法に触れる機会が大きく増加し、教職員の取り組みが深まった。今後この経験を活かしアクティブラーニングの推進につなげる。また 2020年度は基礎・臨床の講義動画の集積がなされたため、moodle 上にアーカイブを作成する予定である。
改善状況を示す根拠資料
資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事録 資料 56：2020 年度 Moodle 画面プリントスクリーン 資料 11：2020 年度医学教育 F D W S 資料

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準：適合	
改善のための助言	
「授業計画書」にカリキュラムの全体像と各授業科目との関連性を明示し、学生がその学年での学修の意義を理解できるようにすべきである。	
改善状況	
新型コロナウイルス感染拡大に際してのカリキュラム変更に伴う対応はオンラインシラバスシステムや moodle を活用して周知を行った。オンラインツールの利用拡大の影響もあり、2021 年度から冊子体としての授業計画書は発行しないこととなった。moodle の「医学部医学科連絡用」のコースに、使命と学修成果、6 年間のカリキュラム全体像、各学年の時間割、シラバスを掲載（バナー掲載含む）している。また 4 月のガイダンスでは、学修成果やカリキュラム全体像と該当学年の時間割を提示し、6 年間の医学教育の中での該当学年の立ち位置を示している。	
今後の計画	
今後も使命と学修成果、6 年間のカリキュラム全体像、各学年の時間割、シラバスの提示を継続する。また各学年の 4 月ガイダンス時に、カリキュラム全体像と該当学年の学修内容との関連を説明していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 10：moodle 「医学部医学科連絡用」 資料 12：4 月ガイダンス資料（教育教務委員長資料）	



### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準：適合	
改善のための助言	
カリキュラムポリシーにおいて評価方法にも言及すべきである。	
改善状況	
2020年度、熊本大学にて3つのポリシーの改定作業がなされた。医学部医学科のカリキュラムポリシーに「3. 学修成果の評価の方針」として「学修成果の獲得の評価は、筆記試験だけでなく、実技試験や観察評価など様々な方法で行う。その方法については、各開講科目のシラバスにおいて「評価方法・基準」で示します」との記載がなされている。	
今後の計画	
評価方法の妥当性、信頼性については適宜検証を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 13：熊本大学医学部3ポリシー	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
3年次における、約3か月の「基礎演習」や、「プレ柴三郎コース」、「柴三郎コース」を設けて研究マインド涵養をしていることは評価できる。	
現在の状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、「基礎演習分科会」を設置し議論を行っている。2020年度における基礎演習は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月末まではオンラインで、その後は対面で実施を行った。ただし、例年実施している発表会は実施できず、各研究室での対応となった。2021年度基礎演習の学生配属先については、2020年度冬に実施するが、基礎演習での研究室選択において、基礎演習以前にプレ柴三郎コースやそのほかの関連で自主的に研究活動を行っている学生をその研究室に優先的に配置する優先研究室配置制度を施行し、学生と研究室の希望・マッチングに配慮した。	
今後の計画	
新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、今後も基礎演習など学生の研究経験を確保する。基礎演習の在り方については、分科会を中心に今後も検討を継続する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 11：2020年度医学教育 FDWS 記録	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
EBM について体系的な教育を行い、その成果を臨床実習で学生がさらに活用する機会を設けるべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、教育方略も含むカリキュラム全般について検討する「カリキュラム分科会」を、また診療参加型臨床実習の推進のために「参加型臨床実習の推進分科会」を設置し議論を継続している。EBM の応用のため、「Up to Date」、「今日の診療サポート」の大学内の導入を行っている。さらにクリニカルクラークシップの「地域医療実習」では、「今日の診療サポート」を参照できる iPad の貸し出しを行い、学外実習施設でも EBM を応用できる環境を整えている。	
今後の計画	
「カリキュラム分科会」において臨床推論を学修する機会を模索している。症候学を学ぶ場において EBM の応用についても体系的に教育する機会を模索する。また「参加型臨床実習の推進分科会」において、臨床実習での EBM の活用を増加させるため、実際に EBM 活用を行っている診療科の活動を紹介周知することを計画していく。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事録 資料 14：地域医療実習資料（iPad 貸出票）	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.3 基礎医学
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
AI や iPS 細胞を利用した再生医療など、将来的に医療において必要になると予測される事項を授業に取り入れている。	
現在の状況	
1 年生の医学情報処理や最新医学セミナーなどにて AI や iPS 細胞などについての講義を継続している。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 15：2020 年度シラバス（「医学情報処理」：p1）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
------------	--------------------------

基本的水準：部分的適合
改善のための助言
行動科学のカリキュラム全体を統轄する部門もしくは教員を定め、体系的に学ぶ仕組みを構築し、実践すべきである。
改善状況
2018年度入学生より、1年次に行動科学Ⅰ、4年次に行動科学Ⅱを履修する。両方の講義は、生命倫理学講座、臨床医学教育研究センターが主体となり、講義を行う予定である。2020年度は1年次で行動科学Ⅰ、4年次の「医療と社会」にて行動科学の講義を行っている。また2022年度より開始となる4年次科目「行動科学Ⅱ」について、生命倫理学講座および臨床医学教育研究センター教員にて準備会議を行っている。
今後の計画
行動科学Ⅰ/Ⅱを担当する教員による定期的な会合を行い、カリキュラムの検討を行う。
改善状況を示す根拠資料
資料15：2020年度シラバス（「行動科学Ⅰ」：p9） 資料15：2020年度シラバス（「医療と社会」：p6） 資料16：行動科学Ⅱ講義打ち合わせ資料

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
行動科学の体系的な教育を確立し、将来における医療ニーズを考慮し、カリキュラムを検討していくことが望まれる。	
改善状況	
2018年度入学生より、1年次に行動科学Ⅰ、4年次に行動科学Ⅱを履修する。両方の講義は、生命倫理学講座、臨床医学教育研究センターが主体となり、講義を行う予定である。2020年度は1年次で行動科学Ⅰ、4年次の「医療と社会」にて行動科学の講義を行っている。また2022年度より開始となる4年次科目「行動科学Ⅱ」について、生命倫理学講座および臨床医学教育研究センター教員にて準備会議を行っている。	
今後の計画	
行動科学Ⅰ/Ⅱを担当する教員による定期的な会合を行い、カリキュラムの検討を行う。またカリキュラム委員会にて行動科学のカリキュラム検討を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料15：2020年度シラバス（「行動科学Ⅰ」：p9） 資料15：2020年度シラバス（「医療と社会」：p6） 資料16：行動科学Ⅱ講義打ち合わせ資料	

良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
4年次からの臨床実習（ローテーション）、5年次の特別臨床実習（クリニカルクラークシップ）、6年次の特別臨床実習（クリニカルインターンシップ）と段階的に臨床責務を増やす体系的な臨床実習を組んでいる。	
現在の状況	
2020年度も臨床実習28週間、クリニカルクラークシップ39週間、クリニカルインターンシップ6週間を行っている。折しも新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、2020年4月から5月にかけては大学病院を含む本荘キャンパスの学生立入が制限された。その間は moodle や Zoom を活用したカンファレンス参加、グループ学習や討議、講義動画の視聴、症例シナリオの提示とそれについてのレポート作成、割り当てた症例についての診療計画の作成、遠隔での訪問介護模擬体験など、様々な代替実習がなされた。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 17：2020-2021 臨床実習日程	
資料 18：2020-2021 特別臨床実習の手引き	
資料 19：moodle「2020-2021 臨床実習」プリントスクリーン	
資料 20：moodle「2020-2021 特別臨床実習」プリントスクリーン	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
卒業後に適切な医療的責務を果たせるように十分な知識、臨床技能、医療専門職としての技能を修得できるような診療参加型臨床実習をさらに充実すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。ただ、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大があり、なかなか多人数が集まったの会議が実施できなかった。そのような中、月1回程度の定期的開催の教育医長会議において、実際の実習の議論・情報共有を継続している。さらに2020年度3月に医学科長の意向により教育教務委員長（診療参加型臨床実習促進分科会委員長、臨床実習学生評価分科会を兼務）、地域医療担当教員、臨床医学教育研究センター教員が参加する「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ」が組織され議論を開始した。	
今後の計画	

<p>診療参加型臨床実習促進分科会において、診療参加を促進する方略を議論を継続する。教育医長会議などでの診療参加を積極的に行っている診療科のプログラムの周知を推進する。「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ」での議論を進める。</p>
<p>改善状況を示す根拠資料</p>
<p>資料 2：2020 年度教育医長会議議事記録</p> <p>資料 21：「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ」議事記録</p>

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
<p>基本的水準：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>診療参加型臨床実習において、診療録記載教育を強化すべきである。</p>	
<p>改善状況</p>	
<p>カリキュラム委員会の附属組織として、診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。ただ、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大があり、なかなか多人数が集まったの会議が実施できなかった。令和 2 年度、大学病院の電子カルテについて、学生には担当患者の閲覧権限は認められているが入力権限は認められていない。臨床実習中のカルテ記載教育は、各診療科ごとに電子カルテ以外の電子媒体や紙カルテを用いて行っている。紙カルテを用いて指導している診療科については、特別臨床実習の手引きにそのカルテが提示されている。</p>	
<p>今後の計画</p>	
<p>診療録記載教育について、学生による医療面接を電子カルテに記載することなどを大学病院とも引き続き検討する。また、臨床実習開始前のカルテ記載教育の充実を検討する。</p>	
<p>改善状況を示す根拠資料</p>	
<p>資料 18：2020-2021 特別臨床実習の手引き</p>	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
<p>基本的水準：部分的適合</p>	
<p>改善のための助言</p>	
<p>すべての学生が、重要な症候と疾患を十分に経験することを保障すべきである。</p>	
<p>改善状況</p>	
<p>カリキュラム委員会の附属組織として診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。ただ、令和 2 年度</p>	

は新型コロナウイルス感染拡大があり、なかなか多人数が集まったの会議が実施できなかった。また、臨床実習時に経験した症例の病名の集積を moodle にて行っている。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で病棟実習が一部規制された
今後の計画
学生が経験している症候を把握するための調査を継続するとともに、その内容を解析し対応策を講じる。
改善状況を示す根拠資料
資料 22：2020 年度臨床実習経験症例資料

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習ですべての学生が健康増進と予防医学の体験をできる機会を作るべきある。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、保健所での実習について検討する「保健所実習」分科会も設置し議論している。現在クリニカルクラークシップの地域医療実習の中で、保健所での実習が実施されている施設もある。20213 年 3 月に開催された分科会にて、クリニカルクラークシップ内での保健所実習の可能性などについて議論された。	
今後の計画	
保健所実習分科会にて、早期臨床体験実習やクリニカルクラークシップ、多職種連携教育の中で、保健所の活動などを学ぶ機会を増やすよう検討を継続する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 23：クリクラ地域医療実習要項	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
診療参加型臨床実習を効果的に行うために、重要な診療科では、原則として 1 診療科あたり 4 週間以上を確保すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習	

<p>学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。ただ、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大があり、なかなか多人数が集まったの会議が実施できなかった。また2020年度3月に医学科長の意向により教育教務委員長（診療参加型臨床実習促進分科会委員長、臨床実習学生評価分科会を兼務）、地域医療担当教員、臨床医学教育研究センター教員が参加する「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ」が組織された。その中で臨床実習のスケジュールを含め大きな枠組みの変更も議論を開始している。</p>
今後の計画
上記分科会とワーキンググループで今後の臨床実習の大きな枠組みの変更についても議論を継続する。
改善状況を示す根拠資料
資料 21：「今後の臨床実習の枠組みを検討するワーキンググループ」議事記録

### 良い点・特色ある点として評価された項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
1年次から3年次にかけての早期臨床体験実習と3週間の「地域医療実習」の必修化で地域に根ざした教育を行っていることは評価できる。	
現在の状況	
2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、9月の1年次早期臨床体験実習Ⅰ、2月の2年次早期臨床体験実習Ⅱの実地実習は中止となり、実習予定だった施設・部署へのインタビュー実習や調べ学習にて代替した。またクリニカルクラークシップでの地域医療実習も一時期地域医療機関での実地実習が困難となり代替実習となった。今後は新型コロナウイルス感染の状況をみつつ早期臨床体験実習と3週間の「地域医療実習」を継続していく予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 24：2020年度早期臨床体験実習Ⅰ発表会資料	

### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準：適合	
改善のための示唆	
教育成果「D.チーム医療と信頼される医療の実践」を臨床実習において獲得するための多職種連携教育の導入が望まれる。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として多職種連携教育を議論する「多職種連携教育分科会」を設置し、議論をしている。新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染症に対応する人材育成が求められている。2021年3	

月に、本学の感染症医療人育成事業計画は、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択された。その中で、本学医学部医学科、保健学科（看護学専攻、放射線専攻、検査医学専攻）、薬学部薬学科の学生合同での、グループワーク実習を計画している。
今後の計画
各講座における臨床実習などでの多職種連携教育の実態をアンケート調査する。2021年度には感染症医療人育成事業計画が採択された。その中で、本学医学部医学科、保健学科（看護学専攻、放射線専攻、検査医学専攻）、薬学部薬学科の学生合同でのグループワーク実習を具体化し施行する。
改善状況を示す根拠資料

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに進めることが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム委員会において、水平統合について検討する。2020年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大が大きな社会問題となった。本学を含む医育機関において、感染症管理の知識技能を有する医療人の輩出は社会からの要請である。熊本大学の感染症医療人育成事業計画は、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択された。その中で、医学科で行われている基礎医学、臨床医学の感染症関連の講義を「感染症人材育成事業指摘講義」に指定している。	
今後の計画	
カリキュラム委員会において、次の医学教育モデル・コアカリキュラム改編に合わせたカリキュラム改革に際し水平統合を実施するための本学の問題点を抽出する。また水平統合の重要性や各科目の連携について、カリキュラム委員会、教育医長会議、医学教育FDワークショップなどで議論を進める。	
改善状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合をさらに進めることが望まれる。	
改善状況	



カリキュラム委員会において、水平統合について検討する。2020年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大が大きな社会問題となった。本学を含む医育機関において、感染症管理の知識技能を有する医療人の輩出は社会からの要請である。熊本大学の感染症医療人育成事業計画は、文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択された。その中で、医学科で行われている基礎医学、臨床医学の感染症関連の講義を「感染症人材育成事業指摘講義」に指定している。
今後の計画
カリキュラム委員会において、次の医学教育モデル・コアカリキュラム改編に合わせたカリキュラム改革に際し水平統合を実施するための本学の問題点を抽出する。また垂直統合の重要性や各科目の連携について、カリキュラム委員会、教育医長会議、医学教育FDワークショップなどで議論を進める。
改善状況を示す根拠資料

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラムの管理
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラム委員会の構成委員に、低学年から高学年までの学生の代表を正式に含めるべきである。	
改善状況	
2019年12月に教育・教務委員会、カリキュラム委員会、教育評価委員会のそれぞれの委員会細則を改正した。この改正により2020年4月より、カリキュラム委員会の上位期間である教育教務委員会の委員に3年生の学生が正式委員となった。カリキュラム委員会の学生委員の任期は5年次9月より6年次8月までである。	
今後の計画	
カリキュラム委員会の学生委員の任期は5年次9月より6年次8月までである。今後低学年の参加をカリキュラム委員会にて検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料3：カリキュラム委員会細則	
資料55：2020度カリキュラム委員会委員名簿	
資料5：医学教育教務委員会細則	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラムの管理
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	

カリキュラム委員会での議論の詳細を議事録などで確実に記録し、教育カリキュラムの改善に活かすことが望まれる。
改善状況
カリキュラム委員会、教育医長会議の議事録、議事要録を作成し保管している。
今後の計画
各委員会の議事録の作成保管を継続する。
改善状況を示す根拠資料
資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事記録 資料 2：2020 年度教育医長会議議事記録

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラムの管理
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム委員会に教員と学生以外の教育の関係者の代表を含めることが望まれる。	
改善状況	
教育・教務委員会にて 2019 年 12 月教育・教務委員会、カリキュラム委員会、教育評価委員会のそれぞれの委員会細則を改正した。この改正により 2020 年 4 月より、カリキュラム委員会の構成員に「医学教育に精通している医学部医学科以外の者」を含めることが可能となった。	
今後の計画	
カリキュラム委員に教員と学生以外の教育の関係者の加入する構成員を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 3：カリキュラム委員会細則	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
卒前教育と卒後教育・臨床実践の間の連携をより緊密にとるべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その分科会の「多職種連携分科会」「IR 分科会」に卒後教育に関わる熊本大学病院総合臨床研修センター教員が参加し連	

携して実施することになった。また医学教育を評価する医学教育評価委員会にも熊本大学病院総合臨床研修センター教員が委員として加わっている。
今後の計画
熊本大学医学部医学科及び臨床医学教育研究センターと、熊本大学病院総合臨床研修センターの連携を図る。
改善状況を示す根拠資料
資料 25：医学教育評価委員会細則
資料 26：2020 年度医学教育評価委員会議事記録

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
卒業生が将来働く環境から統計的に情報を得て分析し、教育プログラムの改良に活かす仕組みを構築することが望まれる。	
改善状況	
医学教育評価委員会に学外実習施設の代表が委員として参加し、情報を得ている。またカリキュラム委員会の附属組織である「IR 分科会」に卒後教育に関わる熊本大学病院総合臨床研修センター教員が参加し、IR 担当部署に対して助言している。	
今後の計画	
県内医療機関対象に本学卒業生に関する意見聴取を企画する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 25：医学教育評価委員会細則	

#### 今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
カリキュラム委員会を通じて地域や社会の意見を取り入れ、教育プログラムの改良を行うことが望まれる。	
改善状況	
医学教育評価委員会には熊本県地域医療を担当する委員が参加している。熊本県の医療問題を踏まえた本学へのフィードバックをいただいている。また 2020 年度は世界的な新型コロナウイルス感染拡大が大きな社会問題となった。本学を含む医育機関において、感染症管理の知識技能を有する医療人の輩出は社会からの	

要請である。熊本大学の感染症医療人育成事業計画は文部科学省の「感染症医療人材養成事業」に採択された。

今後の計画

カリキュラム委員会において、地域や社会の意見をいただく機会を設け、社会の情勢を踏まえたカリキュラムの改良を試みる。その一つとして、新型コロナウイルス感染拡大に対応する人材育成のプログラムを 2021 年度に実施する予定である。

改善状況を示す根拠資料

**領域3****良い点・特色ある点として評価された項目**

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
「早期臨床体験実習」ではログブック、レポート、振り返り、多職種評価などを用いた包括的な評価が行われている。	
現在の状況	
早期臨床体験実習Ⅰではログブックと実習先指導者（多職種）による観察評価、および発表会での教員と学生によるピア評価、早期臨床体験実習Ⅱでは指導者による観察評価（多職種）とレポートの評価、早期臨床体験実習Ⅲではログブックによる振り返りと実習先指導者による観察評価にて形成的、総括的評価を行っている。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により早期臨床体験実習ⅠとⅡにおいて実地実習が実施できなかった。これらの実習では施設へのインタビュー実習、レポート作成、調べ学習の発表などによって評価を行った。	
今後の計画	
今後早期臨床体験実習での評価について信頼性、妥当性の検討を行う。	
改善状況を示す根拠資料	

**今後改善が見込まれる項目**

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習前教育では知識に関する評価にウエイトが置かれている。知識、技能、態度をバランスよく評価する仕組みを導入して、学生に開示すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。	
今後の計画	
学生評価分科会にて知識技能態度の評価を検討する。具体的には、シラバスチェックや各科目の教育担当者に対するアンケートを通して、知識、技能および態度のバランスなど、実施されている評価方法の実態とくに問題点を抽出する。また、他の医学系大学における評価のバランス・仕組みについて情報を収集する。	
改善状況を示す根拠資料	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習におけるログブックなどの記録をさらに充実させて、すべての診療科において、確実に教育成果に基づく評価を実践すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論をしている。ただ 2020 年度は新型コロナウイルス感染の影響で会議開催が困難であった。現在ログブックは 32 の診療科で導入している。また教育医長会議にてログブックの導入について推奨している。	
今後の計画	
臨床実習評価分科会と臨床実習学生評価分科会が連携し、臨床実習でのログブックの充実を図る。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 18：2020-2021 年度特別臨床実習の手引き	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
外部の専門家による評価の吟味を組織的に実施すべきである。	
改善状況	
医学教育評価委員会には、医学科以外の専門家に参加してもらい、学生評価を含む本学の医学教育について意見を頂いている。現在統合卒業試験は、各講座から試験問題を提出したあと、教育教務委員（統合卒業試験担当）と臨床医学教育研究センター職員によるチェックがされている。カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。	
今後の計画	
学生評価分科会は、学修成果の再設定や科目統合等によるカリキュラム再編といった体制確定後に外部の専門家の活用について検討を行う。具体的には本学教養など外部の専門家を招聘し、第三者性・中立性を担保した評価の吟味、特に統合卒業試験問題、各講座の学士試験問題を医学科以外の教育専門家により吟味して頂くシステムの構築を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

資料 25 : 医学教育評価委員会細則

資料 28 : 2020 年度統合卒業試験実施要項

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
評価の信頼性・妥当性を検証することが望まれる。	
改善状況	
医学部医学科 IR 部門にて、統合卒業試験の信頼性、妥当性の検討を行っている。また各講座での学士試験について、他の講座との相関などを検討している。また、カリキュラム委員会の附属組織として、IR の活動について議論する「IR 分科会」を設置し、議論を行っている。各講座の学士試験の結果を IR にて収集している。	
今後の計画	
各科目の試験について信頼性、妥当性の検証をする仕組みを考慮する。各科目間の相関、また CBT や国家試験との相関も検討する。各講座の学士試験について、採点結果の詳細（問題 1 つ 1 つの結果など）を収集する仕組みを構築し信頼性の検討を行う。また長期的には、学修成果の再設定や科目統合等によるカリキュラム再編といった体制確定後に、信頼性と妥当性を検証できる評価の実施について行動計画を立案する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 29 : 2020 年度統合卒業試験の解析	
資料 30 : 2020 年度卒業生の 6 年間の試験結果の解析	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
外部評価者の活用を図ることが望まれる。	
改善状況	
共用試験では、他大学の外部評価者による評価を行っている。また、早期臨床体験実習や基礎演習、臨床実習にて本学以外の医療施設や研究施設にて実習を行った場合、学外実習施設の職員による評価を行っている。ただ 2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学外での実習、特に早期臨床体験実習 I、II での学外実習が著しく制限され、学外施設の職員による評価が不十分となった。統合卒業試験は臨床系診療科より問題を挺出してもらい、それを統合して出題しているが、それらの問題は教育教務委員（統合卒業試験担当）と臨床医学教育研究センター職員によりチェックされている。カリキュラム委員会の附属組織と	

して、学生の評価を検討する「学生評価分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を行っている。
今後の計画
学生評価分科会は、学修成果の再設定や科目統合等によるカリキュラム再編といった体制確定後に外部評価者の活用について検討を開始する。当面は、各講座の学士試験を他の講座の教員によって吟味する機会を設けることを検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料 31：早期臨床体験実習評価表 資料 32：2020 年度臨床実習ログブック 資料 28：2020 年度統合卒業試験実施要項

### 良い点・特色ある点として評価された項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準：部分的適合	
特記すべき良い点（特色）	
学士試験の実施時期の分割や統合卒業試験の導入などにより、試験日程が過密にならないように配慮している。	
現在の状況	
試験日程については、カリキュラム委員会出席の学生委員からの意見、学長・医学部長と学生の懇談会での意見を踏まえつつ毎年度調整している。また学年代表を通じての要望なども踏まえつつ日程調整している。 2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、試験日程も大きな変更を要した。試験日程の変更には試験実施講座や学生の意見なども踏まえつつ医学科カリキュラム委員会、教育教務委員会、医学科会議の審議を経て決定された。	
今後の計画	
今後も、各年度のカリキュラム作成過程において、カリキュラム委員会や教育教務委員会に出席している学生委員の意見も踏まえつつ、試験日程の調整を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事記録 資料 6：「学部長懇談会」	

### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	



すべての科目において、マイルストーンで設定した教育成果との対応を考慮した評価を実施すべきである。
改善状況
本学の使命と学修成果を再度見直すため、医学科カリキュラム委員会の分科会として「使命・学修成果分科会」を組織し、検討を開始した。また 2019 年 11 月に教職員、学生参加の上での FD ワークショップを開催した。これらの検討を通じて、使命の改定案を作成した。今後この学修成果の獲得のためのマイルストーンを検討し直し、学修成果の獲得を各科目にて評価出来るように検討する。
今後の計画
カリキュラム委員会等において、変更した学修成果の獲得のためのマイルストーンを検討そして設定する。具体的には、教育成果は担当分科会によって現在見直されており、その設定後に学生評価分科会は学修成果、教育方法そして評価方法の対応・整合性について評価を開始する。
改善状況を示す根拠資料
資料 1：2019 年度医学教育 FDWS 記録

#### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
学生の成長の過程をモニタして到達度を把握し、その情報を教員・学生で共有して、卒業時まで確実に教育成果に到達できる仕組みを構築すべきである。	
改善状況	
医学部医学科 IR 部門にて、各学生の 1 年次から 6 年次までの学士試験の結果を集積している。2020 年度より、4 年次の CBT、5 年次の達成度試験において学修成績が振るわない学生については、担当教員を割り付け学修の援助を行うシステムを開始した。	
今後の計画	
学生個人個人の 1 年次からの成績推移を学生と教員で共有する仕組みを構築する。1 年次より学修習得が遅れて始めた学生について個別に指導教員を割り付けるなど、救済の仕組みを検討する。そして、これらのシステムの構築後に学生評価分科会は各科目の学生評価方法を評価する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 33：学生の成績集積	
資料 34：TEAM100 関連資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学修との関連
質的向上のための水準：部分的適合	

改善のための示唆
形成的評価を体系的に実施し、適切なタイミングでフィードバックして学生の学修を促進する仕組みを構築することが望まれる。
改善状況
カリキュラム委員会の附属組織として、学生の評価を検討する「学生評価分科会」を設置し議論を行っている。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大により遠隔講義、遠隔実習が増加したが、それにより課題の提出とそれに対するフィードバックがなされるようになった。これは特に臨床実習でみられ、学生からも好評価を得ている。
今後の計画
学生評価分科会は、科目ごとに形成的評価の実施状況を詳細に把握、問題点等を抽出することを目的に、一斉アンケート調査を行った。回答内容は現在集計中であり、その結果をもとに、各科目の担当者にフィードバックと助言を行う予定である。また、他の医学系大学における形成的評価について情報を収集する。その後、体系的な形成的評価について議論し、各講座に助言や提案を行う。
改善状況を示す根拠資料
資料 35：遠隔実習のアンケート調査結果

**領域 4****今後改善が見込まれる項目**

4. 学生	4.1 入学方針と入学選抜
質的向上のための水準：適合	
改善のための示唆	
地域や社会の健康上の要請に応じて関連する社会的・専門的情報に基づいて、アドミッションポリシーを定期的に見直す仕組みを導入することが望まれる。	
改善状況	
アドミッションポリシーは、社会的要請などにより、入試委員会にて改訂などが検討され、医学科会議にて承認される仕組みである。	
今後の計画	
今後も熊本県での医療体制の充実など、地方などの要請を受け、入試システムとともにアドミッションポリシーも改善していく。入試制度について、一般推薦入試、地域枠推薦入試などの制度の見直しや、熊本県での医療に従事する人材を育成することを目的としたあらたな枠組みの導入を検討する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	

**良い点・特色ある点として評価された項目・改善した項目**

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
学生委員長が学生から相談を受けるための専用携帯電話を常時所持して、きめ細やかな対応を行っていることは評価できる。	
改善状況	
学生委員長所持の専用携帯電話には、2020年度で6件の相談がなされた。	
今後の計画	
今後も学生委員長の専用携帯電話制度を継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

**良い点・特色ある点として評価された項目**

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準：適合	

特記すべき良い点（特色）
保健センターによる支援に加えて、臨床医学教育研究センター教員の臨床心理士が支援を行っている。
改善状況
臨床医学教育研究センターには臨床心理士が在中し、学生委員会からのカウンセリング依頼に加え、学生にはガイダンスで臨床心理士への相談方法が周知されている。2020年度はのべ166件の相談を実施した。
今後の計画
今後も保健センター、臨床医学教育研究センターでの学習支援を継続する。
改善状況を示す根拠資料
資料 36：2020 年度ガイダンス資料（学生委員会より） 資料 37：2020 年度カウンセリング案件

#### 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
基本的水準：適合	
改善のための助言	
学生委員会によるカウンセリング制度を明文化し、組織的に対応できる体制を構築すべきである。	
改善状況	
学生委員会により、2019 年度入学生より、教授 2 名に対して 5-6 名の学生を割り付けるメンター制度を発足した。メンター教員は定期的な学生への連絡を行うこととされている。これは、4 年次の臨床実習開始まで維持される。	
今後の計画	
メンター制度を充実させるため、メンターからの定期的な連絡などを励行するよう学生委員会より適宜周知する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 38：2019 年度医学科会議資料（メンター制度導入） 資料 39：2020 年度医学科会議資料(2020 年度入学生のメンター割り当て表)	

#### 今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準：適合	
改善のための示唆	
学修上の問題を抱えている学生に対して、早い段階で支援できるよう、出席状況だけでなく、学修進度に関するさまざまな情報を把握してカウンセリングに活用することが望まれる。	

改善状況
2019 年度入学生より、教授 2 名に対して 5-6 名の学生を割り付けるメンター制度を発足した。メンター教員は定期的な学生への連絡を行うこととされている。また 2020 年度に、CBT の成績などを参照し、学修進捗の遅れている 6 年次学生を 20 名ほど選抜し、教員 1 名に 2,3 名の学生を割り付け指導する「TEAM 100」制度を開始した。同年度にはさらに 5 年次の学習進捗の遅れている学生 18 名に対しても教員を割り付け指導を開始している。
今後の計画
各教員より学修進捗に問題のある学生について学生委員会に相談するように周知する。
改善状況を示す根拠資料
資料 38 : 2019 年度医学科会議資料 (メンター制度導入) 資料 34 : TEAM100 関連資料

#### 今後改善が見込まれる項目

4. 学生の参加	4.4 学生の参加
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラムの策定を行うカリキュラム委員会に低学年から高学年までの意見を反映できるよう学生の代表が正式な構成員として参加し、適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。	
改善状況	
2019 年度カリキュラム委員会学生委員は、5 年次 9 月より 6 年次 9 月までの任期である。	
今後の計画	
カリキュラム委員会の学生委員の増員を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 3 : カリキュラム委員会細則	

#### 今後改善が見込まれる項目

4. 学生の参加	4.4 学生の参加
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
教育プログラムの管理を行う組織である医学科教育・教務委員会に、学生の代表が正式な構成員として参加して適切に議論に加わることを規定し、履行すべきである。	
改善状況	
2020 年度より医学科教育教務委員会に 3 年次の学年代表が正式委員として加わるべく、規則の改正がなさ	

れ、3年次の学生が参加している。
今後の計画
今後教育・教務委員会での学生委員の増員について検討する。
改善状況を示す根拠資料
資料 40：医学科会議資料（教育教務委員会規則改定について） 資料 5：医学教育教務委員会細則

良い点・特色ある点として評価された項目

4. 学生	4.4 学生の参加
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
熊本地震を機に組織されたボランティア活動団体が、大学の支援を得て活動を継続していることは評価できる。	
今後の計画	
今後もボランティア活動の支援を継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

## 領域5

### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準：適合	
改善のための助言	
新規教員採用ポリシーを明示し、その中に教員の役割とカリキュラムにおける責任、教育、研究、診療の役割のバランスを示し、さらに採用後にその活動をモニタすることを含めるべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、教員の評価を検討する「教員評価分科会」を設置した。また採用後の活動のモニターについては、2020年度より、月給制、年俸制等の雇用形態にかかわらず、全ての常勤教員を対象として業績評価を実施することとなり、教員の個人活動評価と重複するため、現行の教員個人活動評価（TUBAKI）は2019年度末をもって廃止することが2019年度第3回大学評価会議（2019年10月4日開催）にて承認された。2020年度は新しい業績評価が行われた。	
今後の計画	
教員評価分科会、医学系研究部会議で議論する。教員公募の文書において、教育研究診療の役割のバランスなどの提示を検討する。また採用後の活動のモニタについては新しい制度のもとで実施する予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料41：分科会作成記録	

### 良い点・特色ある点として評価された項目

5. 教員	5.1 募集と選抜方針
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
地域に固有の重大な問題に対応するため「地域医療・総合診療実践学寄付講座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」、「分子神経治療学寄付講座」、「脳血管障害先端医療寄付講座」を設置し、教員を採用していることは評価できる。	
現在の状況	
「地域医療・総合診療実践学寄付講座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」を継続している。また新たに「天草教育拠点」が設置された。	
改善状況を示す根拠資料	
資料42：天草拠点に関する資料	

### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
教員の活動における教育、研究、臨床の職務間のバランスに関する方針を医学部医学科として定め、モニタすべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、教員の FD 活動を検討する「教員 FD 分科会」を設置し、議論を開始した。	
今後の計画	
教員 FD 分科会において、医学部医学科としての教員の活動における教育・研究・臨床のバランスの方針の策定を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

#### 今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
教員の教育スキルを高めるための能力開発に関する方針を策定し、着実に履行し、その成果を検証すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、教員の FD 活動を検討する「教員 FD 分科会」を設置し、議論を開始した。2019 年度は認証評価を受け、熊本大学医学部医学科の使命と学修成果を検討する FD を開催した。2020 年度は、新型コロナウイルス感染拡大によりニーズが増えた遠隔講義のノウハウを共有するための FD を開催した。	
今後の計画	
今後「教員 FD 分科会」において、中長期的な FD の開催計画の策定を行う。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 1：2019 年度医学教育 FDWS 記録	
資料 11：2020 年度医学教育 FDWS 記録	



**領域 6****良い点・特色ある点として評価された項目**

6. 教育資源	6.1 施設・設備
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
被災経験を活かして、学生、教員一体となった大規模な防災訓練を行っていることは評価できる。	
さらに推進した点	
毎年の防災訓練を継続する。2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から規模を縮小したが防災訓練を行った。	
今後の計画	
資料 43：2020 年度防災訓練資料	

**今後改善が見込まれる項目**

6. 教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習において学生が十分な臨床経験ができるために患者数と疾患分類を十分に確保すべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」と、臨床実習における学生評価を検討する「臨床実習学生評価分科会」を設置し、議論を開始した。また IR 部門では、臨床実習中の学生がどのような症例を経験しているかを把握するための「担当症例病名登録」を管理し、その内容を教育医長会議にて共有している。	
今後の計画	
今後学生が担当した症例数と病名について教育医長会議や診療参加型促進分科会などで検討する。「担当症例病名登録」で得られたデータをもとに、大学病院及び学外協力施設での経験症例を検討し、不足する疾患については対応策を検討する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 22：2020 年度臨床実習経験症例資料	

**今後改善が見込まれる項目**

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	

診療参加型臨床実習を実質化するために、学生が電子カルテに記載できる環境を整えることが望まれる。
改善状況
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」を設置し、議論を行なっている。学生へのカルテ記載能力向上のため、各講座のクリニカルクラークシップにて行われてる模擬カルテ記載のためのフォーマットなどは、クリニカルクラークシップの手引きに掲載し、各診療科間で情報共有している。
今後の計画
診療参加を促進する「診療参加型臨床実習促進分科会」において、学生のカルテ記載教育を検討する。またクリニカルクラークシップにおけるカルテ記載教育を進める。電子カルテには学生が記載し、指導教員が確認する機能は実装されているが、現時点では学生の記載能力に疑義が持たれて、この機能の利用を中止している。カルテ記載実習での学生のカルテ記載能力向上が図られた後には、前記機能の利用再開を大学病院に検討依頼を行い、医学科と大学病院で議論することとする。加えて、指導教員によるカルテ記載許可制の導入を考える。また病棟で他職種にカルテ記載の許可学生であることを示すために名札に印をつけることについても検討を行う。
改善状況を示す根拠資料
資料 57：参加型臨床実習促進分科会議事録 資料 18：2020-2021 年度特別臨床実習の手引き

#### 今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
臨床実習において個々の学生への連絡手段をさらに充実することが望まれる。	
改善状況	
臨床実習担当診療科とは、学生の携帯電話番号やメールアドレスの共有を行っている。熊本大学学内 e ラーニングシステムである moodle を活用して学生への連絡をより確実にしている。また地域医療実習では希望者に iPad の貸し出しを行っている。	
今後の計画	
学生への緊急連絡手段の検討を行う。臨床実習において、教員と学生の間ではメール、あるいは学内 e ラーニングシステムでの連絡手段が確保されている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 14：地域医療実習資料（iPad 貸し出しについて）	

良い点・特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.4 医学研究と学識
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
医学研究で培われた学識を活用して、「最新医学セミナー」、「基礎演習」、「プレ柴三郎プログラム」といった教育カリキュラムを充実させていることは評価できる。	
現在の状況	
最新医学セミナー、基礎演習、プレ柴三郎プログラムの継続を図る。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のためカリキュラムの変更がなされた。基礎演習については一部遠隔での実習となり、基礎演習の発表会は中止となった。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 15：2020 年度シラバス 資料 44：2020 年度基礎演習概要 資料 45：2020 年度プレ柴三郎関連資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
基本的水準：適合	
改善のための助言	
教育専門家の学識と経験を組織的に活かす仕組みを検討すべきである。	
改善状況	
教育専門家が教育教務委員会や医学科会議など、医学教育に関する会議体に参加し意見を述べる機会を有している。	
今後の計画	
医学科以外の教育専門家（熊本大学統括機構教員）に医学教育評価委員会の委員として参加してもらい、医学教育の改善について提言を行ってもらっている。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 5：医学教育教務委員会細則 資料 46：2020 年度医学科会議議事記録	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準：適合	
改善のための示唆	

教職員の能力向上のために、FD などを通じて教育専門家をさらに活用することが望まれる。
改善状況
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、教員のFD活動を検討する「教員FD分科会」を設置し、議論を開始した。この分科会には医学教育専門の教員が参加している。また毎年の医学教育FDワークショップでは、医学教育専門家が企画運営に関与している。
今後の計画
本学内の医学教育専門家を増やす。
改善状況を示す根拠資料
資料 11：2020 年度医学教育 FDWS 資料

良い点、特色ある点として評価された項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
経済的な支援を行いながら、海外での研究を推奨する仕組みが導入されている。	
現在の状況	
2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、基礎演習での海外での実習は中止となった。	
今後の計画	
今後、新型コロナウイルス感染拡大が収束したのちに、基礎演習での海外での研究派遣を継続する。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.6 教育の交流
基本的水準：適合	
改善のための助言	
国内外の他教育機関との臨床実習の交流を検討すべきである。	
改善状況	
現時点では学外協力病院での臨床実習が行われている。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ほかの教育機関との臨床実習の交流は縮小せざるを得なかった。	
今後の計画	
今後、診療参加型臨床実習推進分科会、カリキュラム委員会、教育教務委員会などで、国内外他教育期間と	

の臨床実習の交流を検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 47 : 2020 年度学外医学教育協力施設

**領域 7****今後改善が見込まれる項目**

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
プログラムを評価するために、医学科 IR 機能と医学教育評価委員会の役割と権限を明示すべきである。	
改善状況	
医学教育評価委員会の役割と権限について、「医学教育評価委員会細則」にその役割と権限を記載している。また、医学教育評価委員会の委員長を医学科長から医学部長に変更し、委員会の独立性を高めた。カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、IR の活動について議論する「IR 分科会」を設置し議論を行っている。2020 年度「IR 部門」では、収集・解析された各講座実施の試験結果、統合卒業試験の信頼性と妥当性、及び各学年向けのカリキュラムに関するアンケート調査の結果を議論し、医学教育評価委員会に報告した。	
今後の計画	
「IR 分科会」において、IR の役割と権限を定める規則の策定を計画する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 25：医学教育評価委員会細則	
資料 47：2020 年度医学教育評価委員会資料	

**今後改善が見込まれる項目**

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定について、収集した情報を解析し、委員会の検討内容を確実に記録するなどして評価活動の振り返りを行い、PDCA サイクルを回すべきである。	
改善状況	
委員会の検討内容については、議事録、議事要録を作成し記録している。IR 部門では、学生の進捗（6 年間を通しての学士試験の成績など）を集積している。	
今後の計画	
学修の進捗やその他の情報を一元化し概観できるような学生毎のデータベースを構築する。また委員会の活動内容の議事記録を継続して作成する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 46：2020 年度医学科会議議事記録	
資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事記録	

資料 48：2020 年度医学教育評価委員会資料

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
医学科の IR 機能の運営方針と規定を定めるべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、IR の活動について議論する「IR 分科会」を設置し、議論を行っている。	
今後の計画	
「IR 分科会」において、IR の役割と権限を定める規則の策定を計画し、運営方針についても検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
教育成果に沿った形での学生の進捗状況をモニタし、教育プログラムの改善に役立つ評価システムを構築すべきである。	
改善状況	
IR 部門では、学生の進捗（6年間を通しての学士試験の成績など）を集積している。また、各学年に学修状況と学修成果の獲得度の自己評価、及びカリキュラムへの満足度などの項目を含むアンケート調査を実施した。	
今後の計画	
IR 部門では、学生毎の学修成績やその他の情報を一元化し概観できるようなデータベースを構築する。また、学年ごとに学修成績を解析し、学生の進捗状況を把握する。さらに、カリキュラムに関する学生の意見を聴取し、改善すべき課題を抽出する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 33：学生の成績集計	
資料 49：2020 年度学生へのガイダンスアンケート・結果	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
知識だけでなく、技能、態度の教育の観点からも、教育プログラムの課題を特定すべきである。	
改善状況	
教育医長会議などで報告される臨床実習中の学生の不適切な態度などを踏まえ、4年次のプレ臨床実習において臨床実習での適切な態度に関するグループワーク実習を行っている。技能については、臨床実習前に臨床実習入門として、4週間の集中実習を行っている。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、臨床実習が一部縮小され、臨床技能習得の機会も減少せざるを得なかった。	
今後の計画	
普段の大学教育活動の中での学生の不適切な態度についての情報（担当講座や教職員、大学病院関係者からの苦情など）を医学科教務およびIRで集約する。態度教育について、臨床実習における学生の態度に関するアンケートなどを計画し、課題を特定する予定である。技能については、獲得度の自己評価を学年毎のアンケートにて追跡し、また、臨床実習前OSCEや臨床実習後OSCEのデータをIRで集約する。さらに教育医長会議などで各診療科と情報共有し、技能教育の課題を把握する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 50：プレ臨床実習実施要項	
資料 51：臨床実習入門実施要項	
資料 49：2020年度学生へのガイダンスアンケート・結果	

改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
社会的責任に関する評価の指標を定めて、卒業生の実績調査も含め、情報収集と解析を行うことが望まれる。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、IRの活動について議論する「IR分科会」を設置し、議論している。	
今後の計画	
卒業生が勤務している医療機関への調査を計画する。その中で初期研修医については、EPOCの内容と研修態度について、後期修練医以上については業務内容などについて情報を収集する予定である。また本学卒業の初期研修医を対象にアンケート調査を計画する。	
改善状況を示す根拠資料	



--

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
より多くの教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、解析して提言できる体制を構築すべきである。	
改善状況	
教員からは、医学科会議、教育医長会議などでフィードバックを受けている。学生からは、カリキュラム委員会、教育教務委員会の学生委員からの意見聴取、また「学長・医学部長との懇談会」での学生意見聴取の仕組みがある。さらに、各学年にアンケート調査を実施し、学修状況と技能の獲得度に対する自己評価のデータ、およびカリキュラムに関する意見を集積している。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、熊本大学学内 e-ラーニングシステムの moodle の中に学生からの意見を集める「意見箱」を設け、学生からの意見を聴取している。	
今後の計画	
今後も教育医長会議やカリキュラム委員会、教育教務委員会、学長・医学部長との懇談会などでの意見聴取を維持する。さらに学生より直接意見を求める仕組みの構築を検討する。これらの提言を IR にてまとめ、医学教育評価委員会に提示する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 2：2020 年度教育医長会議議事記録 資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事記録 資料 6：「学部長懇談会」 資料 49：2020 年度学生へのガイダンスアンケート・結果 資料 52：意見箱のスクリーンショット	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準：部分的適合	
改善のための助言	
教育成果に沿って学生と卒業生の実績に関する情報を体系的に収集して、使命と期待される教育成果、カリキュラム、資源の提供の観点から分析を行うべきである。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、IR	

の活動について議論する「IR 分科会」を設置し議論している。
今後の計画
IR にて学生の成績と教育成果の獲得度の自己評価のデータを収集解析し、分析を行う。卒業生の実績の情報を得るべく医療機関へのアンケート調査の実施を検討する。また、本学出身の初期研修医に対してもアンケートを行い、自己評価を得る。
改善状況を示す根拠資料

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
個々の学生に関するさまざまな情報を一元的に管理し、共有する体制の整備が望まれる。	
改善状況	
カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で、IR の活動について議論する「IR 分科会」を設置し、議論している。教務や各講座などに集まる学生情報を IR に集中させ、集積している。	
今後の計画	
学修の進捗やその他の情報を一元化し概観できるような学生毎のデータベースを構築する。	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
医学教育評価委員の評価結果・提言、それによって行われた改善事項を閲覧できるようにすることが望まれる。	
改善状況	
現在は医学科会議議事要録への記載にとどまっている。	
今後の計画	
医学教育評価委員会からの提言を医学科のホームページに記載することを検討する。	
改善状況を示す根拠資料	

資料 53 : 医学科会議議事録 (医学教育評価委員会の提言)

今後改善が見込まれる項目

7. プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準：部分的適合	
改善のための示唆	
広く医学教育にかかる関係者から、卒業生の実績およびカリキュラムに関するフィードバックを求めることが望まれる。	
改善状況	
医学教育評価委員会では、学外実習施設や初期研修施設の教職員や熊本大学の他学部の教員も委員として参加いただき、卒業生やカリキュラムについてのフィードバックを頂いている。	
今後の計画	
卒業生の実績の情報を得るべく卒業生が勤務する医療機関へのアンケート調査を実施する。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 26 : 2020 年度医学教育評価委員会議事録	

**領域 8**

## 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統轄および管理運営	8.5 保健医療部門との交流
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
熊本県との緊密な連携が行われている。	
現在の状況	
今後も熊本県との連携を維持していく。	
改善状況を示す根拠資料	

## 良い点・特色ある点として評価された項目

8. 統轄および管理	8.5 保健医療部門との交流
質的向上のための水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
自治体と協力して「地域医療・総合診療実践学寄附口座」、「地域医療支援センター」、「玉名教育拠点」が設置され、「早期臨床体験実習」、「地域医療実習」などをおして連携していることは評価できる。	
現在の状況	
今後の熊本県と協力し、地域医療教育を行う。2019年度には「天草教育拠点」が設置された。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 42：天草拠点に関する資料	

## 領域 9

### 良い点・特色ある点として評価された項目

9. 継続的改良	
基本的水準：適合	
特記すべき良い点（特色）	
2014 年から新カリキュラムを導入するなど、教育プログラムの改善に取り組んでいる。	
現在の状況	
2019 年の認証評価を受け、教育プログラムの問題点を抽出し改善策を検討する組織として、カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で分科会の開催は制限された。	
今後の計画	
各分科会にて教育カリキュラムの改善に取り組む。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 54：分科会進捗状況 資料 4：2020 年度カリキュラム委員会議事記録	

### 今後改善が見込まれる項目

9. 継続的改良	
基本的水準：適合	
改善のための助言	
医学教育評価委員会によるプログラム評価を活用して PDCA サイクルをさらに進め、継続的に収集したデータや学生の学修成果に基づく教育プログラムの改善を実施すべきである。	
改善状況	
IR 組織と医学教育評価委員会を継続している。また、カリキュラム委員会の附属組織として、本学の医学教育の要素ごとの「分科会」を組織した。その中で IR 機能に関する分科会も組織し検討している。	
今後の計画	
今後 IR の役割と権限を定める規則の策定や運営方針を検討し、その機能強化を図る。また医学教育評価委員会での教育プログラムの評価と改善策の策定を継続する。	
改善状況を示す根拠資料	